

(資産運用)：2022 年上半期はインデックス型の外国株式投信が投信販売をけん引

2022 年上半期は厳しい市場環境となる中、2021 年に売れに売れたアクティブ型の外国株式投信の販売にやや陰りが見えた。その一方でインデックス型の外国株式投信は積立投資の浸透などによって、2021 年以上に販売が好調でアクティブ型を超える資金流入があった。

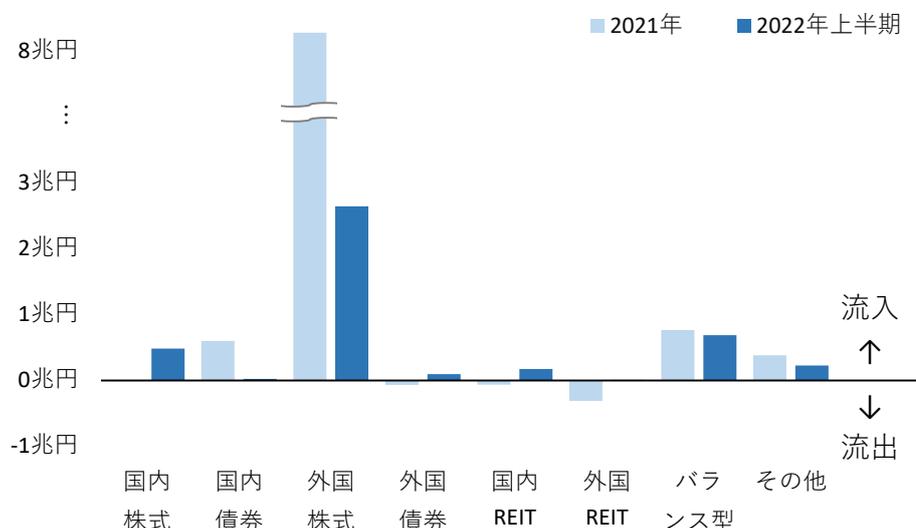
2022 年上半期は、追加型株式投信（ETFを除く。以後、投信）全体に4兆3,000億円の資金流入があった。ただ、2021 年は上半期4兆2,000億円、下半期5兆4,000億円、1年間で9兆6,000億円の資金流入であったため、2022 年上半期は2021 年下半期と比べるとやや減少した。

2022 年上半期の投信の資金動向を組入れている資産別にみると、様々な資産を組入れているバランス型投信には2022 年上半期だけで2021 年を超える資金流入があった【図表1】。その他にも国内株式投信、国内REIT投信、外国債券投信で資金流入に転じた。また、2021 年に流出額が最も大きかった外国REIT投信からの資金流出も2022 年に入ってほぼ止まった。

その一方で外国株式投信と国内債券投信への資金流入は2021 年と比べて大幅に減少した。特に、外国株式投信には2021 年に8兆3,000億円と過去最大の資金流入があったが、2022 年上半期は2兆6,000億円と2021 年から流入ペースがかなり鈍化した。外国株式投信の中では、株価指数に沿った運用を行うインデックス型以外のいわゆるアクティブ型への資金流入が1兆1,000億円となり、半年終わった段階で2021 年の5兆8,000億円の2割弱にとどまっている。

アクティブ型の外国株式投信の資金動向を月次でみると2020 年7月以降、大規模な資金流入が続いていた【図表2：左】。解約額が6,000億円を超える月もあるなど売却もそれなりに出ているが、設定額が毎月8,000億円を超え、時には1兆2,000億円の月もあるなど売れに売れていたことが分かる。それが2022 年に入ってから設定額が減少しており、それに伴って資金流入が鈍化している。

図表1：追加型株式投信（除くETF）の資金流出入



(資料) Morningstar Direct より筆者作成。イボットソン分類を用いて集計。

